

田植え 6月9日(木)

4年生

転んでしまったけど、どろの中は冷たくて気持ちよかったです。ちゃんとならして植えることに気を付けて植えました。わからないと、5・6年生に質問したら、やさしく答えてくれました。昨年よりもたくさんお米を収穫して、地域の方にも食べていただきたいです。 1組 男子

私は一度、田んぼの作業をしたことがありますが、その時よりも大変でした。でも自分たちが作ったものを食べると、とてもおいしいと思うのでがんばっていねを育てたいと思います。ロープの位置がずれていてこまっている時に、5年生が声をかけてくれたのでうれしかったです。来年は自分たちが下の学年の人たちにやさしくしたいと思いました。 2組 女子

5年生

みんなで協力してうえることができました。田んぼに稲が浮かないように意識しました。4年生に教えながら取り組むこともできました。また、地域の方やいろいろな人に感謝の気持ちをもって田植えができました。 1組 女子

泥の中を歩きながら、スズランテープの目印通りの間隔で苗を植えることは、とても大変でしたが、全て植え切ったときはほっとしました。収穫するまで、雨や風に負けずに、丈夫に育ててほしいです。 2組 女子

6年生

4・5年生に並び方や話を聞くとときに「先生の方を向いて」と言えました。ほかの学年とかかわることで、仲が深まるし作業がしやすかったです。たくさんの保護者の方に支えられました。稲をもらうとき「ありがとうございます。」と感謝の気持ちを伝えられました。これからも、少しのことでも感謝の気持ちを伝えたいです。 1組 女子

5年生と話したり、助け合ったり、積極的に下学年にかかわれました。

「田んぼでGO」の人たちや保護者の人たちに感謝の言葉を言う意識ができました。また、少し落とした苗をむだがないよう拾いながらできました。 2組 女子



プール開き 6月20日(月)

僕は水泳学習で大切にしたいことが2つあります。1つめは、これまでの体育学習を生かすことです。6年生になるとクロールと平泳ぎが始まり、レベルがぐんと上がるので、「きれいに速く泳ぐ」という自分の目標に向かって、全力でがんばりたいです。また、水泳も体育学習の一つなので、これまでと同じように友だちと見合ってアドバイスし合い、あきらめずに挑戦することを大切にしたいです。

2つめは、安全に学習することです。プールの中で足をすべらせておぼれてしまうなどたくさんの危険があるので、自分と友だちの体調に気を付けながら、学習をしていきたいです。

6年1組 男子

泉区スピーチコンテスト 6月29日(水)

『差別のない世の中へ』 SDG s 5

6年 女子

みなさんは身のまわりで、「男女差別」や、「外国人差別」を感じたことはありますか。私は、今前テレビのニュース番組で差別について取り上げられていたのを見ました。そのニュースの内容を見た私はとてもおどろき悲しくなりました。世界ではつい最近まで、サッカー大会の賞金が男性と女性で違ったというのです。男子サッカーワールドカップで優勝した男子チームの賞金は日本円で約48億9000万円でした。それに対して、女子サッカーワールドカップで優勝した女子チームは日本円で約5億1000万円でした。男子チームは女子チームの約十倍近い賞金を受け取っていたのです。

このニュースを見てSDG sの目標の中に「ジェンダー平等を実現しよう」が入っていたことを思い出し、調べてみました。すると、今年の6月2日に国際的な研究組織が163カ国のSDG sの達成状況を発表していました。なんと日本は19位で、目標別の評価では「ジェンダー平等を実現しよう」をふくむ6つが最低評価でした。

私にはもう一つ差別を感じたことがあります。私には両親がアメリカ人と日本人の友だちがいます。アメリカでは「ハーフ」という考え方がないため、その友だちのアメリカ人のお父さんは自分の子どもが「ハーフ」と言われるのがいやだったということです。最初その思いを聞いて自分も知らないうちに差別をしていたと思いました。しかし、実際に日本と外国の人を親にもつ同級生に「ハーフ」と言われていやなのか、と聞いてみました。「いやではない。むしろうれしい。」と答えられて私はとても不思議に思いましたが同級生は「両親の国の文化を両方受け継いで今の自分がいるから。」と言いました。私は友だちのお父さんのように「ハーフ」と言われるのがいやな人がたくさんいるのではないかと考えていましたが同級生のように「ハーフ」と言われて、うれしいと感じる人がいると知り、おどろきました。

では、このような差別をなくすためにどのような解決策があるのでしょうか。

まず一つ目は、「おかしい」と思ったことを伝えることです。男子だから女子だからという理由で制限を受けたときは「おかしい」と思うことが大切だと思います。そして「おかしい」と思ったときは口にだして言うことも大切だと思います。実際に以前からアメリカの女子選手たちがうったえていたのを理由にサッカーワールドカップの男女の賞金差がなくなっています。

二つ目は相手によって「ハーフ」や「ダブル」を使い分けることです。世の中には「ハーフ」と言われてうれしい人、いやだなと感じる人。「ダブル」と言われてうれしい人、いやだなと感じる人がいるかもしれません。相手によって言葉の受け取り方は違うので「ハーフ」や「ダブル」さらに同じ意味として使われる「ミックスルーツ」を使い分けてみてはどうでしょう。

差別と感じたら「おかしい」と伝えたり、「ハーフ」や「ダブル」、「ミックスルーツ」など相手に合わせて言い方を使い分けることは「ジェンダー平等を実現しよう」以外の、SDG sの目標にもつながっていくことだと思います。みなさんにも世界の全ての人が過ごしやすい安全なせかいになるようにまずは、意識することで出来るこの二つの取組を、していきましょう。